

文化探訪 ～ 行ってみました今宿遺跡 ～

広報さやま4月号で紹介された、今春3月に再整備が完了したばかりの「今宿遺跡」を会報委員有志で訪ねました。

この住居跡は、奈良・平安時代に人々が暮らした痕跡を今に伝えるものです。昭和44(1969)年、日生さやま台団地(広瀬台1丁目)を造成する際に第1次調査が実施され、翌昭和45(1970)年、桶川市の高井遺跡を参考として住居が復元されました。この調査では笹井から柏原にかけて48件の住居跡や、高麗文化の影響を受けた土器がたくさん出土しましたが、子供用の土器は見つからなかったそうです。



再整備された第16号復元住居前で

復元整備後半世紀が経過して老朽化が進み、地域の方や篤志家の多大な協力で再整備されたと聞きました。



昭和45年に復元された第16号住居

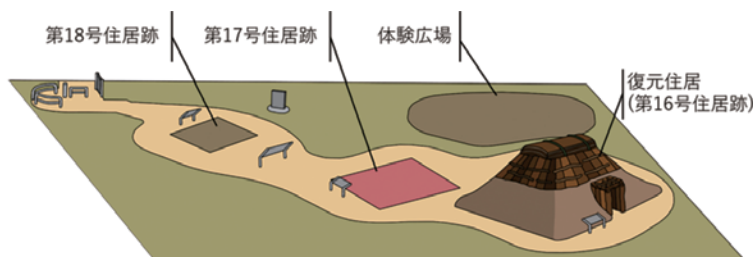
第16号住居は、縦柱の無い建物として復元されました。今回、今宿遺跡内の第18号焼失住居(火災で焼け落ちた住居)に残された痕跡を改めて検証して推定した姿は、これまでに建てられていた茅葺屋根の復元住居とは異なる形でした。そんな最新の知見から推定された新しい形(土葺屋根)の住居が復元されています。

17号住居跡はピンクに着色されたコンクリートで覆われ、18号住居跡は草が生い茂っていましたが、下は土で埋められています。その状態でも位置と規模はわかります。



新しく復元された第16号住居

これまでの柵の外から復元住居を眺めるしかできなかったのですが、今回の再整備では入口が設けられ誰でも遺跡内に入ることができるようになり、復元住居の展示とともに、古代の道具の使い方、火おこし体験や発掘体験など、郷土の古代文化について、児童生徒を中心に様々な人が複合的に学べる体験学習の場として活用できるスペースになりました。



再整備された今宿遺跡公園内案内図

復元された第16号住居は、屋根の部分に排気筒、内部への入口には施錠されたドアが付けられていました。今回の再整備では復元住居の保護や危険防止を優先したためでしょうが、入口が現代の住宅用のドアで施錠されているのには非常に違和感を覚えました。また、内部は復元されていない状態と聞きました。せめてカマド跡は復元して、内部も見学できる形にして欲しかったと思いました。

この住居跡は1000年以上も前に人間の営みが確かにあった証です。長い間の人々の努力の上に、今の私たちの暮らしがあることを改めて感じました。再整備にあたって多くの寄付があったと聞きますが、狭山市民の、史跡を守り後世に伝えようという尊い思いがそこに現れているのだと納得できました。

※今宿遺跡での体験学習については社会教育課にお問い合わせください。

狭山市今宿遺跡ページ

